

生命倫理教育に関する研究

——教員養成系大学生と看護系大学生との意識の比較——

庭 野 義 英*・杉 田 収**

(平成17年4月28日受付；平成17年6月2日受理)

要 旨

生命倫理に関する問題は近年身近になってきている。脳死と臓器移植、ヒトゲノム、遺伝子組み換え食品などはバイオテクノロジーの進歩に伴って避けて通れない事柄になってきている。これらの問題は答えが一つに決まる訳ではなく、答えがないかまたは答えが複数考えられるものである。今後このように自分で考えて決断しなければならない場面に多く直面することが考えられる。このようなことを想定した授業はこれまでほとんど行われてこなかった。科学的命題に対する指導は行われてきても価値的命題の指導はなかったのである。生命倫理教育はこれらの両方の側面を取り上げた教育であり、今後より多く取り上げられる必要がある。

KEY WORDS

生命倫理教育	Bio-ethics Education	遺伝子組み換え食品	Genetic recombination food
科学的命題	A scientific proposition	価値的命題	A value proposition
理科教育	Science Education	科学的教養	A Scientific Literacy

1. はじめに

近年のバイオテクノロジーの進歩は、これから社会を担っていく子どもたちが避けて通れない問題を多分に含んでいる。今後の理科教育においては、自然科学の人間生活への応用や科学－技術－社会の相互関連の中で自然科学を教えていくことになるだろう。すなわち、科学的命題の重視から価値的命題の重視への重点移動である^①。先行研究によれば^②、小・中学生は生命倫理に関する事柄に興味・関心を持っているが、体系的に生命倫理について教えている学校はなく、生命倫理教育のカリキュラムもない。先行研究の結果を受けて、生命倫理に関して看護系大学生と教員養成系大学生の意識を調査し、比較した。

2. 先行研究の考察

上述の奥田の研究によれば^③、以下のようなことが分かった。

「あなたは今までに生命倫理という言葉聞いたことがありますか。」という問いに対して、47%の教師が、聞いたことがあります、ある程度理解していると思う、と答え、50%の教師が、よく分からないが聞いたことがある、3%の教師が、全く聞いたことがない、と答えた。十分な理

* 上越教育大学自然系

** 新潟県立看護大学

解はしていないが、ほとんどの教師が生命倫理を耳にしたことがある、という結果が得られた。

「今まで生命倫理に関すると思われる事柄を授業の中で取り上げたことがありますか」という問いに対して、22%の教師が、生命倫理を授業の中で取り上げたことがある、と答え、78%の教師が、授業の中で取り上げたことがないと答えた。ほとんどの教師は、生命倫理を授業の中で取り上げたことがない、という結果であった。また、「その他、生命倫理に限らず、生命に関すると思われる事柄（動物を育てることや、生命の誕生についての学習など）を授業の中で取り上げたことはありますか」という問いに対して、生命倫理以外の生命に関する教育の実施度に大きな差が見られた。生命に関わる内容は、すべての教師が取り上げている、ということが分かった。次に「生命倫理に関する事柄を授業の中で取り上げることは大切だと思いますか」という問いに対して、生命倫理教育は94%の教師が、とても大切だと思う、どちらかと言えば大切だと思う、と答え、6%の教師が、あまり大切だと思わない、と答えた。教師の生命倫理教育に対する重要度の認識は高い、という結果が得られた。

「今後、生命倫理に関する事柄を授業の中で取り上げようと考えていますか」という問いに対して、生命倫理を取り上げようとする教師の意欲が見られた。67%の教師が、取り上げようと考えている、どちらかと言えば取り上げようと考えている、と答え、33%の教師が、あまり取り上げようと考えていない、と答えた。多くの教師に、今後取り上げようとする意欲がある、という結果であった。

「現在の授業カリキュラムの中で、生命倫理に関する事柄を授業の中で取り上げることは可能だと思いますか」という問いに対して、61%の教師が、可能だと思う、どちらかと言えば可能だと思う、と答え、39%の教師が、あまり可能だと思わない、と答えた。現在のカリキュラムの中で、生命倫理を取り上げることに對して、賛否両論の結果が得られた。今後のカリキュラム作成上の問題を提起している。

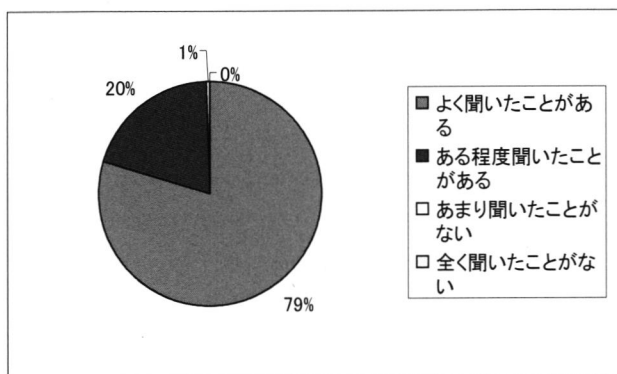
以上のことから、小、中学校において、生命倫理教育は、ほとんど行われていないという現状が明らかになった。しかし、実施はしていないが、生命倫理を授業の中で取り上げることは重要だと、ほとんどの教師が考えている。また、今後、生命倫理に関する事柄を授業の中で取り上げようとする意欲がある教師が多いという結果が得られた。さらに、記述式の回答からは、小学生には難しいのではないかと、発達段階に合わせた内容が必要等の意見が多く見られた。

3、看護系大学生と教員養成系大学生の生命倫理に関する意識の比較研究

生命倫理に関する意識の比較研究の為に、看護系大学生は2004年4月にまた教員養成系大学生は2004年の10月にそれぞれ意識調査を行った。以下の本文中の学年は当時の学年を示している。

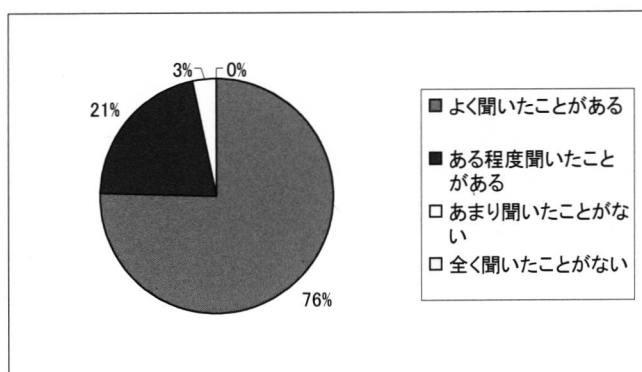
問い1、あなたは遺伝子という言葉聞いたことがありますか？

	看護系学生	教員養成系1年	教員養成系2年
よく聞いたことがある	129人	68人	19人
ある程度聞いたことがある	32	19	15
あまり聞いたことがない	1	3	3
全く聞いたことがない	0	0	0



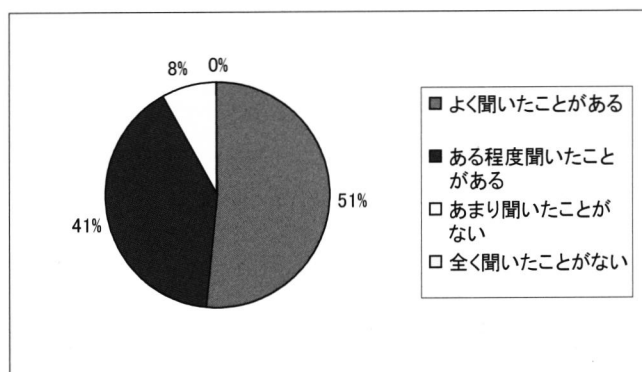
看護系：

99%の学生が「遺伝子」という言葉を耳にしている。



教員養成系1年：

97%の学生が「遺伝子」と言う言葉を聞いたことがあると答えている。わずかではあるが、看護系の学生より割合は低い。



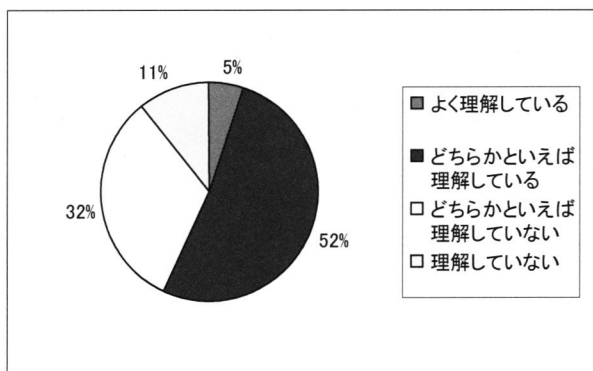
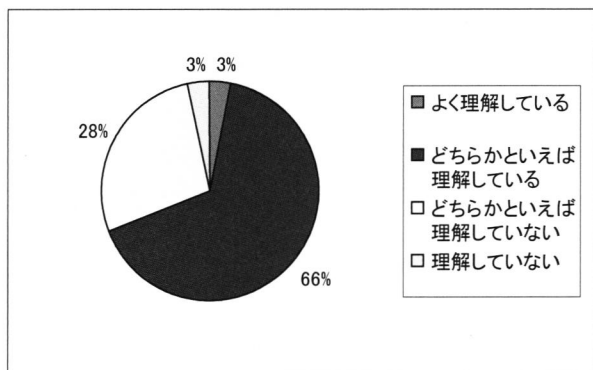
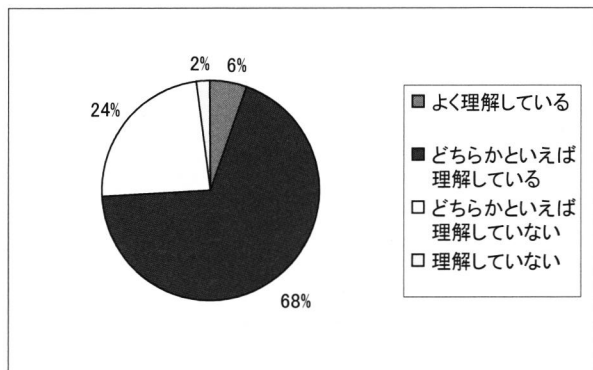
教員養成系2年：

2年生では92%の学生が「遺伝子」と言う言葉を聞いたことがあり、看護系学生、教員養成系1年よりも低い値を示している。

「遺伝子」についての認知度は看護系の学生が高い。

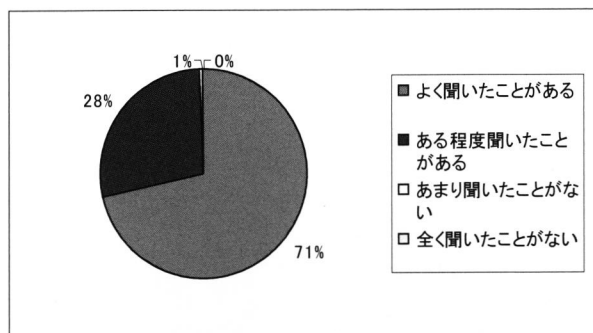
問い2, あなたは遺伝子とは何か理解していると思いますか？

	看護系	教員養成系1年	教員養成系2年
良く理解している	9人	3人	2人
どちらかといえば理解している	110	59	19
どちらかといえば理解していない	39	25	12
理解していない	3	3	4



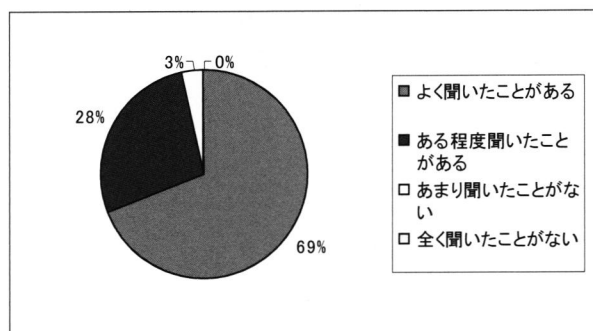
問い3, あなたは, 遺伝子組み換え食品という言葉聞いたことがありますか。

	看護系	教員養成系1年	教員養成系2年
よく聞いたことがある	115人	62人	18人
ある程度聞いたことがある	45	25	16
あまり聞いたことがない	1	3	3
全く聞いたことがない	0	0	0



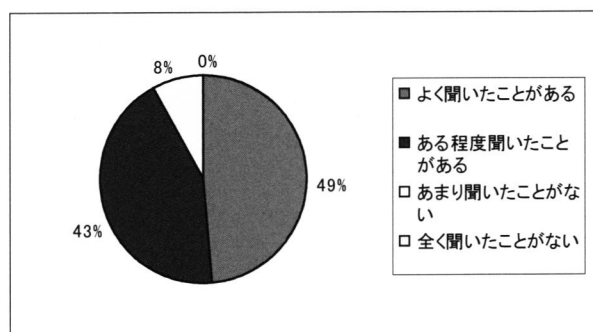
看護系：

良く聞いたことがある, とある程度聞いたことがあるを合わせると99%と, 看護系の学生の認知度は高い。



教員養成系1年：

97%の学生が何らかの程度で聞いたことがあり, 認知度はかなり高い。



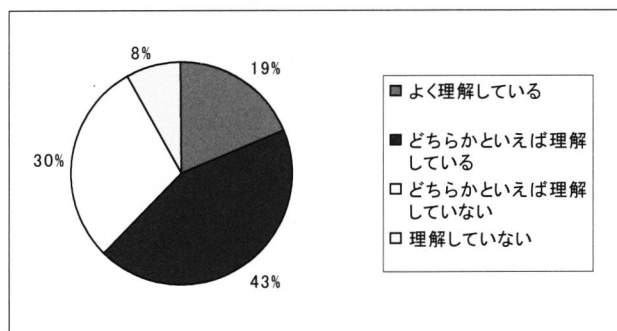
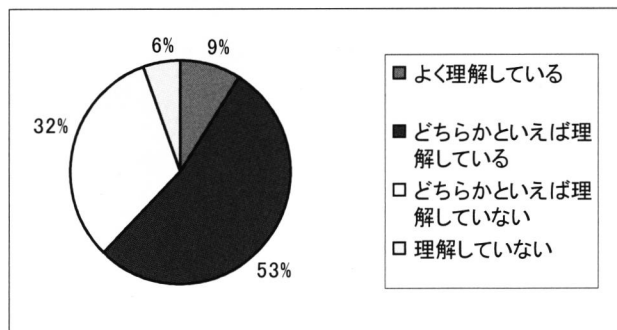
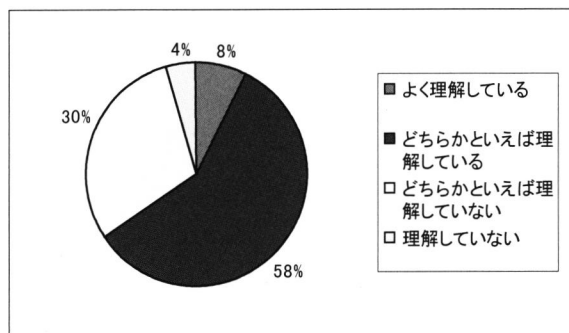
教員養成系2年：

遺伝子組み換え食品という言葉の認知度は92%と低くなる。

看護系の学生はほとんど全員が遺伝子組み換え食品という言葉聞いたことがある。

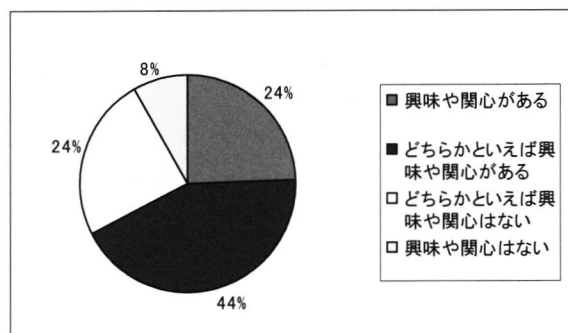
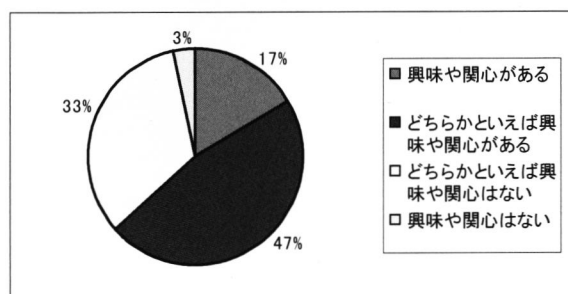
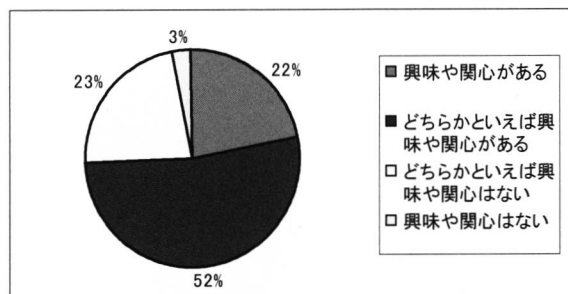
問い4, あなたは遺伝子組み換え食品とは何か理解していると思いますか？

	看護系	教員養成系1年	教員養成系2年
よく理解している	12人	8人	7人
どちらかといえば理解している	92	48	16
どちらかといえば理解していない	48	29	11
理解していない	7	5	3



問い5、あなたは遺伝子組み換え食品に興味や関心がありますか？

	看護系	教員養成系1年	教員養成系2年
興味や関心がある	35人	15人	9人
どちらかといえば興味や関心がある	83	42	16
どちらかといえば興味や関心はない	36	30	9
興味や関心はない	5	3	3



4, 考 察

以上述べてきたように、生命倫理に関する意識調査では、全体として看護系の学生が教員養成系の学生よりもどの調査項目に関しても高い割合を示しているが、これは当然のことかも知れない。しかし、問い4の遺伝子組み換え食品に関する理解度は、看護系も教員養成系も大きな差はなく低い。しかし、看護系がわずかに高い値を示している。

はじめにでも述べたように、今後生命倫理に関する事柄は避けて通れない問題を出してくることが予想され、一人ひとりの意思表示を求められることになるだろう。このような教材（ジレンマ教材）はまだ実験的にしか実践されていない。生命倫理を扱ったジレンマ教材を授業で取り上げ実践したところ、児童・生徒はこうした教材に大変大きな興味・関心を示し、さらに理科に対する興味・関心も高まったという研究もある。教員養成系の大学においても生命倫理に関するカリキュラムを導入し、看護系の学生位には少なくとも認知度を高めたい。

2004年春の内閣府の調査によれば、過去5年間で国民の科学・技術離れはさらに進んだという。文部科学省では「科学技術への関心を高めようと、様々な施策を展開してきたが、こんな結果になり大変ショックだ」の話している。^④

国民一般の科学的教養（Scientific Literacy）を高めるためには児童生徒の理科嫌い・理科離れの解消が必要である。そのためには教員養成の段階から見直さなくてはならない。

引 用 文 献

- ①安斉育郎，科学と非科学の間，かもがわ出版，pp12-20，1997
- ②奥田義将，小，中学校における生命倫理教育のカリキュラム開発に関する研究，平成15年度上越教育大学修士論文，平成16年3月
- ③戸所雄彦，他教科との比較に見る，小・中学校理科の課題とその対処法の研究，平成15年度上越教育大学修士論文，平成16年3月
- ④ <http://headlines.yahoo.co.jp/h?a=20040410-00000415-yom-soci>，2004年4月11日

A Study on Bio-ethics Education

— A comparison of Consciousness between Students at Teachers College and Students at Nursing College —

Yoshiei NIWANO* and Osamu SUGITA**

ABSTRACT

Bio-ethics Education has been important to teach at schools. Recently, We can not avoid such problems as human-gene, genetic recombination food an ES. We can not give difinate answers to such problems. Some have no ansewrs, and some have many. Such subjects are called dilemma, which will be introduced to Japanese schools. We have been teaching A scientific proposition so far, but now we have to teach a value proposituon, instead.

* Division of Science : Department of Science Education

** Niigata College of Nursing.